

平成30年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台国際幼稚園

当園ではこの度、平成30年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び学校関係者評価、保護者アンケートを実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

身体も心ものびのびと過ごせる、情操と知育を総合させた教育を目指しています。
きちんとした価値観やモラル心を身につけること。それが心身を健やかに成長させ、子どもの未来を創る原動力となります。

保育をする上では、「徳育、知育、体育、国際化（英語教育）」の4つの理念を大切に、その中で息づく「こころ」を育てる教育を実践しております。

きちんとしたモラルの心を身につけ、親孝行で将来社会の役に立つ人として育てていくよう、教諭、講師、職員で力をあわせ、お子様たちの保育をすすめてまいります。

II. 今年度の重点目標

- 教職員の資質向上
- 教職員間の連携強化
- 安全管理体制の充実
- 園全体の発展

III. 自己評価項目と取り組み状況

自己評価項目		取り組み内容	
1	教職員の資質向上	A	子ども達の手本となるように笑顔での挨拶を心掛け、来園した保護者に対しても自ら挨拶ができる子が増えた。目標に向かってあきらめずに一輪車に取り組んだ結果、クラスの半数以上が乗れるようになった。今年度はタブレットを用いたアニメーションを通じた教材を取り入れ、興味津々で楽しく勉強する姿が見られた。また、文字やピアノの個人練習の時間をとる事で、より達成感を味わえるようにしたり、音楽研修等で学んだことを活かして、子どもの指導の仕方や向き合い方を工夫して取り組んだ。外遊びの時間を作ることで、切替を意識しメリハリが生まれて集中力が増した。それぞれの成長に合わせて指導方法を変えたことで、個々の成長が目に見える良い形で現れている。
2	教職員間の連携強化	B	報告、連絡、相談はその都度密に実践するように心掛け、朝礼終礼に加えてノートを用いて情報共有を行った。会議については、参加した先生がその内容を会議録としてまとめ伝達することでもれなく共有し、バスやホームクラスで出られない時はノートを活用する等工夫している。学年では掃除の担当決め等細かいところまで全体で把握するようにした。また、感染症の情報を共有し、保護者に対して感染拡大しないように周知を図る取り組みができた。教職員一人ひとりが自分自身で考えられるように成長し、経験の長い職員は相談される側に立っていかねばならない。学年間では連携が取れている一方で、他学年の事がまだまだ共有できていない面があり、全員が揃う機会や環境を整える等の連携強化を図っていく。

平成30年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台国際幼稚園

自己評価項目		取組み内容	
3	安全管理体制の充実	避難訓練の回数やその方法・設定について再度検討する。	A 今年度は火災・地震・不審者についての避難訓練を毎月交互に行ってきた。訓練の実施頻度は適切で、子ども達はそれぞれの災害発生時の対応を覚えておくことが出来ている。避難時のルールについても十分に浸透してきている様子が伺え、避難時の標語もしっかりと覚えている子どもも多く見られるようになっている。毎月異なる避難訓練を実施することで意識付けができ、避難訓練の内容を伝えずとも放送から判断をするようになってきている。放送が始まったら子ども達は静かにして聞き取る姿勢が身に付き根付いてきた。不審者対策の際は特別な暗号を決めて実施している。避難する時間帯や行動がパターン化してしまわないように、変化や工夫を続けていく。
		子どもたちが安全に遊具を利用できる環境を整えるために、遊具の確認を定例化して行う。	C 遊具使用時は教職員が注意して目を見張ることで事故はなく、子ども達が安全に遊べる環境づくりに努めた。遊具点検は日々細部にわたり行うべきであるが、戸外遊びの際に子どもの指摘から不備に気付くこともあった。不備はその都度改善しているが、老朽化による劣化が木材の部分に見られる等修繕が急務である。一輪車のタイヤ修理等は先生達自身で対応できるようになっており、その作業手順について再度確認を行い、子ども目線で一緒に遊び片付ける中で、今後も安全確認を励行していく。危険箇所の有無や確認に加えて更に点検を強化するとともに、また老朽化や金属疲労による劣化については、専門業者への点検依頼も検討に入れていく必要がある。
4	園全体の発展	園全体の発展につなげるため、保護者アンケートの集約意見を教職員全体で考察する。	B アンケートをまずは担任同士で回覧し、全クラス分目を通して内容把握に努めている。担任は他のクラスの保護者の意見も知ることができ、様々な意見から刺激を受けることが出来ている。アンケートの回収時にメモをとりながらどなたの意見であるか確認をとり、検討や対策に活かして改善された点もある。一方でアンケート内容を共有出来ていたが意見交換は不十分であったと捉えている教職員もあり、十分な時間をとりミーティングや話し合いの場を設けて行きたい。同様に全体で共有した後の改善策や具体的な行動が伴っていないという意見もある。今年度は自由記述欄の記載がやや少なく感じたため、園の発展につながる貴重な意見集約ツールと捉えて取り組んでいく。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員の資質向上	教職員各々が自発的に学ぶ姿勢を持ち、見聞きしたり自ら調べた内容を保育に実践し深めていく。
2	教職員間の連携強化	連絡事項は全教職員での情報共有に努め、伝達もれなきように連携を図っていく。
3	安全管理体制の充実	訓練実施の頻度と時間帯を見直し、様々な状況下で対応力を養っていく。
4	安全管理体制の充実	子どもたちが安全な園生活を送るため、施設及び備品類の点検を定例化して行う。
5	園全体の発展	保護者アンケートの意見から、教職員各々が園全体の発展を考えて行動に移していく。

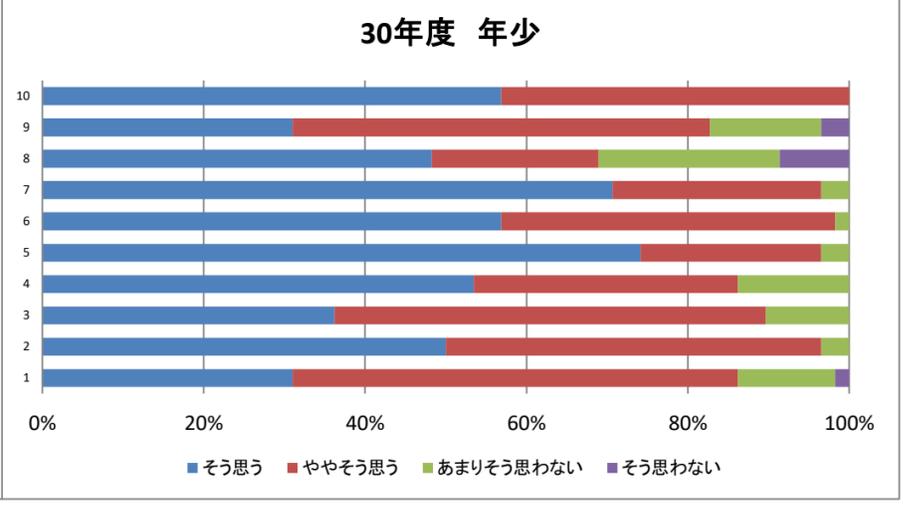
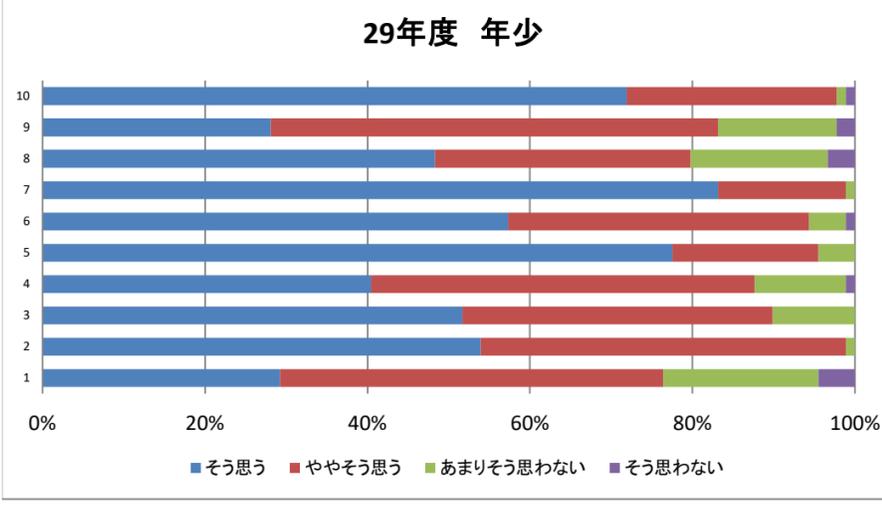
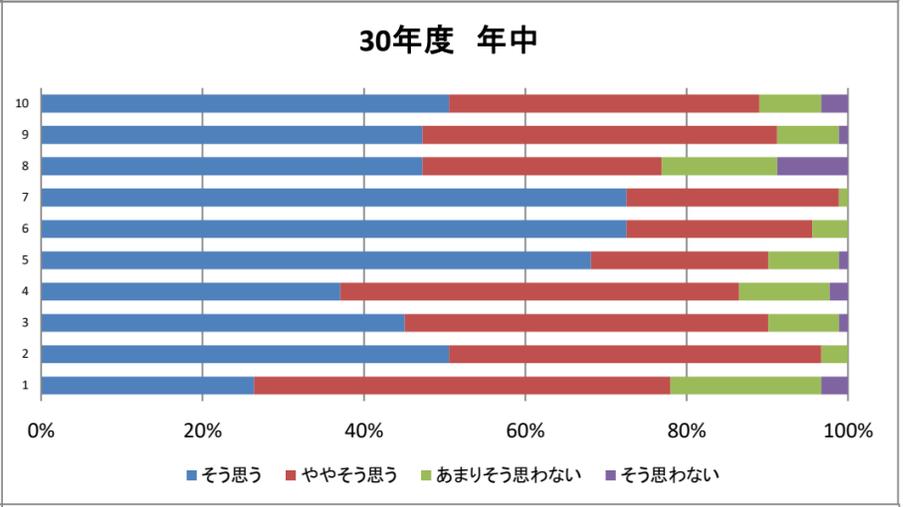
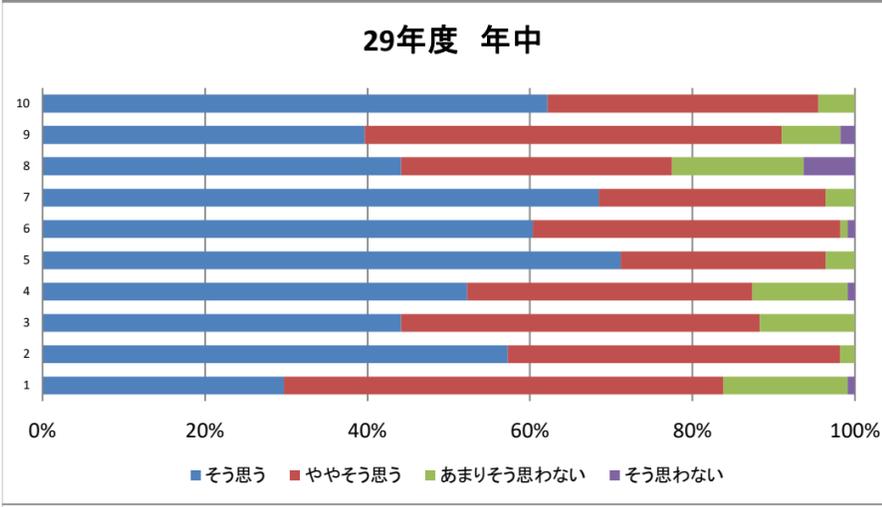
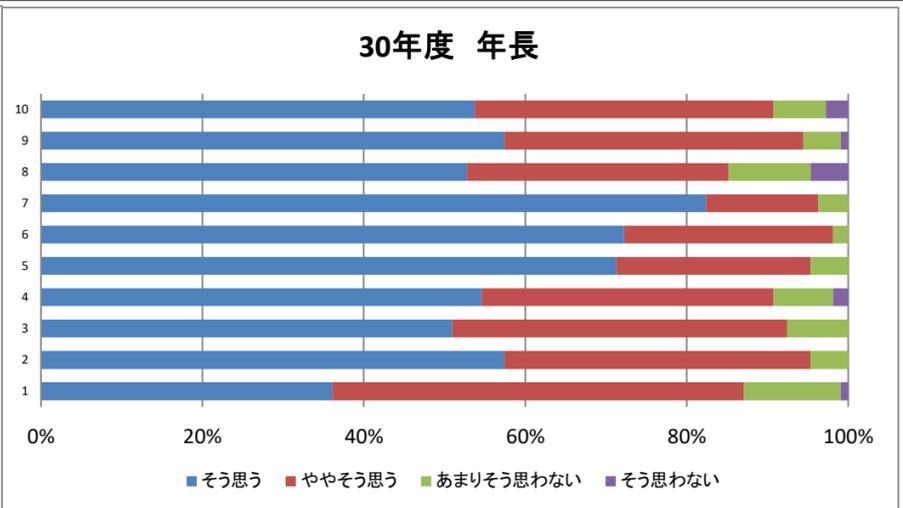
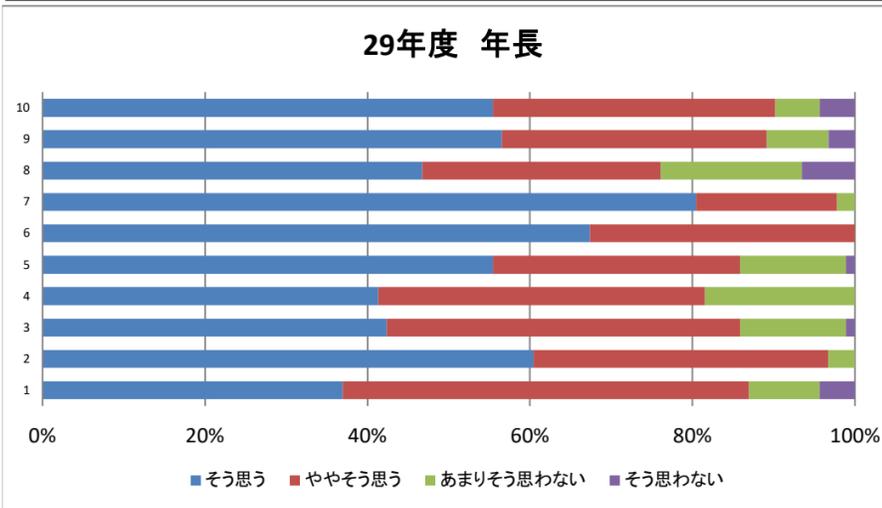
平成30年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台国際幼稚園

V. 保護者アンケートの結果

■アンケートの集計結果

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5
お子さんは、誰にでも自分から挨拶をしたり、感謝の気持ちを伝えることができますか？(ありがとうの言葉など)	お子さんは、感受性が豊かだと感じる時がありますか？	お子さんは、話を聞く時、相手の目を見て聞くことができますか？	お子さんは、お家で進んでお手伝いをすることができますか？	お子さんは、絵本に興味を持ち、読んでもらうという姿勢が見られますか？
質問6	質問7	質問8	質問9	質問10
お子さんは、集団生活の基本(順番を守るなど)がきちんとできていますか？	お子さんは、体育活動(跳び箱、縄跳び、鉄棒、一輪車、ボールなど)を楽しみにしていますか？	お子さんは、プール活動を楽しみにしていますか？	お子さんは、体育活動やプール活動を通じて、体が丈夫になったと思いますか？	お子さんは、英単語や英語の歌などに興味を示していますか？



平成30年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台国際幼稚園

■アンケート結果の考察(気付いた事・今後の課題など)

◇項目1

進級の過程で、自分から言葉に出して挨拶し感謝する習慣が徐々に身に付きつつあると思われます。一人では恥ずかしさや戸惑いを感じながらも、お友達と一緒に皆元気に明るく挨拶しています。継続することで自然と身に付くかと思ひます。

幼稚園では、身近な人に対してだけでなく、来客哉近隣の方への挨拶の指導もしています。ご家庭でも更にお子様の積極性を引き出せるよう、共に指導の徹底を今後もお願いしたいと思ひます。

◇項目2

全体で95%を超える結果です。この年代のお子様は特に感受性が豊かであり、また同時に感受性の豊かさは非常に大切であると思ひます。大人では見過ごしてしまいがちなこともあります。些細なことにでも美しいと感じ、楽しいと感じられるような気持ちを育んでいけるよう見守っていきたく思ひます。

◇項目3

全体の90%以上が身に付きつつあると感じられているようです。恥ずかしい等、お子様の性格差や学年差はありますが、幼稚園では子どもの視線を引き付ける変化や工夫も織り交ぜながら、相手の目を見て話す、聞く指導を今後も徹底していきたく思ひます。ご家庭でも会話の際はお子様の目を見て話し、目を見て聞く意識を持って、繰り返しコミュニケーションをとって頂ければと思ひます。

◇項目4

幼稚園では、先生のお手伝いやお当番を通して、与えられた責任を果たす事で、やりがいや褒められ感謝される喜びが体感できるように指導しています。家庭でもお手伝いをしてもらふ機会を多くし、感謝の気持ちを十分に伝えていただく事で、人に喜んでもらい必要とされているとお子様を感じられる機会が増えれば、更に積極的な行動につながるかと思ひます。

◇項目5

全学年で本に触れ合う高い意識が持てていると思ひます。ただ、進級と共に興味の対象が多くなり、本に触れ合う機会が減少していること懸念されます。当園子ども文庫の3千数百冊に及ぶ蔵書に触れ合う機会を、今後もできるだけ多く持ち、テレビ等ではなかなか得られない創造力、新たな知識や興味、そして感受性等を培って頂ければ願っています。今後も蔵書内容の吟味、充実をさらに図っていきたく思ひます。

◇項目6

全学年とも非常に高い結果だと思ひます。集団生活の中で基本ルールを守る大切さが身に付きつつあると思ひます。ご家庭、園での指導の賜物かと思われます。今後の小中高、大学、社会人の基本となることなので、妥協することなく徹底していきたく思ひます。その一方で、わずかではあります「あまり思わない」との回答も見受けられ、ほんの少数が全体の集団生活を乱すこともあり得ますので、今後とも園でも家庭でも徹底した指導が必要と考えています。

◇項目7

全学年で95%以上と非常に高い結果が得られています。子ども本来の活発に動き回る姿がうれしく思ひます。園目標の柱の一つである「体育を通しての体力づくり」では、一輪車や鉄棒等で目標に向かって繰り返し努力をすること、またその過程での先生との一体感、お友達との協力、そして達成する喜びを子ども達に感じてもらえる指導を今後も実践していきます。

◇項目8

全体に80%前後が「プール活動を楽しみにしている」との回答です。プール活動は暑い寒い関係なく一年を通してあり、学年によっては目や耳に水が入り呼吸がしにくい等の恐怖感があると思われています。進級の基準も明確にして、達成感を味わうことができる内容としています。一方でお子様自身が思うような結果が出ない場合もあり、これが「あまりそう思わない・思わない」との回答の一つの要因かと思ひます。今後とも体育活動と同様にプールが楽しみになるよう、また挑戦意欲が継続できるようにさらに工夫していきたく思ひます。

◇項目9

特に年長で約95%の高い数値が得られています。3年間の体育、プール活動を通じての結果、体が丈夫になったと感じていただきうれしく思ひます。年少での実感は今一歩ですが、成長の過程であり3年間継続することで、進級と共にきっと実感していただけると確信しています。

◇項目10

年少の「そう思う、ややそう思う」で100%を占めており、とてもうれしく思ひます。初めての幼稚園生活で、週2回の英語レッスンでの歌や手遊び、ゲーム等を通してネイティブ英語に触れることが新鮮であったと思われます。

年長組はアルファベットを書く取組みと自分の名前もローマ字で書ける等、英語ノートを取り入れたことで、興味と自信に繋がったと思われます。楽しく学べる工夫を更に心掛けていきたく思ひます。

VI. 学校関係者の評価

子ども達の笑顔で元気いっぱいのおいさつは、清々しくとても気持ちが良いです。日頃から率先して挨拶を行う先生方の姿勢の成果だと思います。先生方が見本となり、子ども達が真似して習慣となり定着しているのだと思い、いつも尊敬しています。子どもに寄り添い、一緒に楽しむ先生方の姿勢が良い園の雰囲気づくりに大いに活かされていると感じています。子ども達の状況を個別に把握し、その子にあった課題を設定して取り組む先生の姿が昨年度に比べて多く見られ、園全体での取り組み姿勢が強く伺えました。

先生方の心温かい保育にいつも感謝しています。思いやりの心や生活習慣、そして小学校進学時に順応できる学力がつくように色々な面での教育に取り組み、子ども達の自主性や個性も見守って下さっています。その結果、英語、プール、体操にも興味を持ち楽しみにしており、先生に褒められてうれしそうな様子が印象的です。のびのび楽しく育ており、保護者としても大変うれしい限りです。

以上